

公益財団法人 南砺幸せ未来基金

令和4年度 事業報告書

I 概要と主な成果

令和4年度は、昨年度に引き続き、豊かで特色ある「地域資源」を活かして地域課題の解決を目指す、多様な主体及びその取組みを市民自らが支える仕組みを構築すること、循環共生型の社会づくりに貢献するため「未来資本」を創出することを目指し活動に取り組んだ。

法人設立の4ヵ年目にあたり、助成事業の拡充および南砺幸せ未来基金（以下、財団）運営の基盤構築などに向けて以下の5点を重点事項として位置づけ取り組みを進めた。

1 相談体制構築・支援事業実施

南砺市は人口減少、少子高齢化、若者の流出、世帯の小規模化・単身化などから、地域社会の支え合いの仕組みが脆弱化している。そのため、地域には複合化・複雑化した課題や事例が増加し、これまでの取組では解決が難しい現状である。

市内の課題解決能力を高めるため、課題要因の洗い出しや段階を踏んだサポート、資金調達の助言等を行い、課題解決へ事業化ができる人材の育成と支援ネットワークの構築に取り組んだ。

(1)案件組成

助成事業の地域伴走支援体制強化事業の実施や財団への休眠預金活用事業や頑張る人・地域応援事業などの相談受付、訪問による地域課題の収集を実施し、のべ232回の情報収集を行った。多くの地域課題の洗い出しと要因分析を行い、課題解決への事業化には資金的支援（助成事業の実施）のみならず非資金的支援（助言や紹介、組織体制強化や人材育成）の総合的な支援メニューが重要と認識し、以下の事業に結び付ける取組みを行った。

(2)助成プログラムの開発

案件組成から明らかになった課題を解決するため、中長期ビジョン策定部会で10年後の地域の在りたい姿の具体化を行い、事業の掘り起こしを行いつつ資金的支援・非資金的支援で事業展開を応援し、地域と市民の自立性を高めることで地域の持続可能な社会の実現を目指すものとした。チャレンジ枠（学生等）、市民活動枠とソーシャルビジネス枠を新設し、令和5年度より実施の予定である。

(3)頑張る人・地域応援事業

地域資源を活かした取組みであり、財団が掲げる7つのテーマに即した事業を募集するもの。毎年度春と秋に公募を実施し、1回あたり助成総額90万円で1団体あたり上限30万円である。助成期間は1年を基本とし、最長3年までとしている。令和4年度は第5回、第6回を実施した。

採択団体に対しては、随時ヒアリングを行い事業の進捗確認や相談等を受け、実行団体とのつながりを持てるようこころがけている。

◆第5回頑張る人・地域応援事業

- ・公募期間 令和4年5月2日～5月31日
- ・採択団体 3団体（応募5団体）
- ・採択団体一覧

団体名	事業概要	助成額 (総事業費)
NANTO 移住者コミュニティ「yui no wa 結いの輪」	南砺さとやま「結び」プロジェクト。～移住者が南砺で「ときめく」未来のために、移住者が気楽に集える拠点やネットワークづくり～	300,000円 (375,000円)

ボーイスカウト南砺 第3団育成会	コロナに負けずに元気に野外活動、ソロテントによるキャンプで野外での活動や触れ合いにつなげる。	240,000円 (275,000円)
南砺市さわやかネットワーク	女性議会の開催及び女性議会再開のための協議、市内で活動する団体相互の交流を深め、連携を密にして男性も女性も輝いて生きる社会の推進に寄与する。	220,000円 (740,100円)
合計助成額		760,000円

- ・ 審査選考委員会 令和4年6月27日(月) 13:00～
アスモ2F大会議室
- ・ 審査選考委員 松本久介(理事・業務執行理事)*委員長
川森純一(理事・業務執行理事)
能登貴史(理事・業務執行理事)
森岡 豊(理事 北陸銀行南砺エリア総括福光支店長)
真鍋知子(外部委員 金沢大学融合研究域融合科学系教授)

◆第6回頑張る人・地域応援事業

- ・ 公募期間 令和4年10月3日～10月31日
- ・ 採択団体 3団体(応募5団体)
- ・ 採択団体一覧

団体名	事業概要	助成額 (総事業費)
未来に繋ぐ屋台囃子 後継者育成会	未来に繋ぐ屋台囃子伝承と後継者育成プロジェクト、井波地域を中心に広く参加者を募り月一回の囃子練習会と自主練習日を設定し一年を通し育成指導する。	300,000円 (350,000円)
平地域づくり協議会	みんなで育てる地域の拠点、若者から高齢者までの多世代交流の「場」の創造、平地域の中心で空き家をブックカフェに活用し居場所の創出	300,000円 (400,000円)
南山田地域づくり協議会	防災意識を高めるため、防災訓練時「見えるか」による必需品等の配備、危機管理意識を高める会議や備蓄品等の検討配備を行う。	300,000円 (450,000円)
合計助成額		900,000円

- ・ 審査選考委員会 令和4年11月17日(木) 13:30～
アスモ2F大会議室
- ・ 審査選考委員 松本久介(理事・業務執行理事)*委員長
渡邊美和子(理事・業務執行理事)
亀田秀一(理事・業務執行理事)
森岡 豊(理事)
南部 望(外部委員 南部白雲木彫刻工房)

選考委員会は、第5回と第6回とも申請者のプレゼンテーション10分、質疑10分、審査表の記入10分（1団体30分）にて行った。

(4)事業指定寄付プログラム（冠基金の創設）

このプログラムは、特定の事業を行いたい団体が必要な資金を確保する方策として、財団が事業を指定した寄付を立上げ支援してきた。令和4年度はこのプログラムへの応募はなかったものの、第一交易株式会社が創立70周年を記念し財団に500万円を寄付し、その資金を元に表彰制度「第一交易株式会社西能スポーツ賞」を冠基金として創設した。南砺市全ての小学6年生を対象にスポーツを通じた健全な心身の育成を拓げるため、令和4年度準備し、令和5年度から開始する。この冠基金を契機とし、企業と当財団が連携する仕組みの構築を模索していく。

(5)休眠預金活用事業

「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律（平成28年度法律第101号）」に基づき2009年1月1日以降の取引から10年以上その後の取引のない預金等（休眠預金等）を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度。

1. 2020年度休眠預金活用事業「ローカルな総働で孤立した人と地域をつなぐ」

2020年度休眠預金活用事業「ローカルな総働で孤立した人と地域をつなぐ」で採択した4団体の伴走支援を実施。

実行団体名	社会福祉法人マーシ園		助成額/総事業費	8,400,000円/9,628,600円
事業名	引きこもりや精神障害があり孤立状態の人に社会参加の環境を創る			
中長期アウトカム	①自助グループが設立され、引きこもりや精神障害者が集う日中活動の場がある。 ②孤立者やその世帯が地域とつながり、誰もが安心して働き暮らせる地域や社会になる。			
非資金的支援	社会課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の担当PO打合せ ・事後評価報告書の作成支援 ・活動内容を踏まえた計画変更に対する助言 ・引きこもり支援連携会議への出席、助言 		
	組織基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> ・出口戦略として、引きこもりやグレーゾーンの方への支援を公的サービスにすべく南砺市役所に呼びかけ。 		
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者（地域づくり協議会、民生委員児童委員、南砺市福祉課・南砺で暮らしません課、みやの森カフェ、Team Norisiro）への繋ぎ 		

実行団体名	株式会社ガラバゴス		助成額/総事業費	8,080,000円/11,080,000円
事業名	桜ヶ池キャンプ場			
中長期アウトカム	事業終了後3年後に桜ヶ池周辺において地域コミュニティが構築され、障がい者施設の利用者やひきこもりの方など就職困難者が働く場を確保し、幅広い年齢層の方々の交流が活性化された地域や社会になる。			
非資金的支援	社会課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の担当PO打合せ ・事後評価報告書の作成支援 ・活動内容を踏まえた計画変更に対する助言 		
	組織基盤強化	就労モデルの構築支援		
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者（地域づくり協議会、南原集落、大鋸屋集落、柿農家組合、マ 		

		ーシ園、南砺市福祉課・生活環境課・南砺で暮らしません課、Team Norisiro、島田木材、よってカフェ、社会福祉協議会など）への繋ぎ ・マーシ園との連携モデル構築支援
--	--	--

実行団体名	なんとおせっ会移住応援団	助成額/総事業費	6,767,000 円/7,937,000 円
事業名	空き家対策・移住・定住促進事業		
中長期アウトカム	事業終了後 5 年後に南砺市内において空き家対策・移住・定住促進事業を行う事により、南砺市行政・不動産業者・空き家対策推進委員・地域づくり協議会等の各種団体の意識が高まり、地域の課題を自分事として捉えて、おせっかいをするネットワークが増えていく事で、安心・安全に暮らせる地域や社会になり、定住が増え、人口問題や少子化問題などに意識を向けた地域社会になる。		
非資金的支援	社会課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・月 1～3 回の担当 PO 打合せ ・事後評価報告書の作成支援 ・活動内容を踏まえた計画変更に対する助言 	
	組織基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> ・任意団体である該当団体の将来的な組織体制についての協議、要件整理 	
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者（地域づくり協議会、なんと未来支援センター、南砺市南砺で暮らしません課、雲南市域実行団体）への繋ぎ・中間活動報告書の作成支援 ・出口戦略として空き家の賃貸借事業への助言の実施 	

実行団体名	テラまちコネクト	助成額/総事業費	6,796,500 円/7,996,500 円
事業名	お寺初！おかあさん目線の雇用創出事業		
中長期アウトカム	事業が終了してから 5 年以内には、おかあさんだけが子育てに関わるのではなく、地域みんなが子育てに関わることができるようになっていく。瑞泉寺の売店を中心として地域みんながつながる拠点があり、そこでおかあさんたちがいきいきと働いていたり、地域の中でおかあさんたちが新たな働き方（起業や就職）にチャレンジしている。		
非資金的支援	社会課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・月 1～3 回の担当 PO 打合せ ・事後評価報告書の作成支援 ・活動内容を踏まえた計画変更に対する助言 	
	組織基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> ・任意団体である該当団体の将来的な組織体制についての協議、要件整理 	
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援のウェブサイト運営団体への繋ぎ 	

2. 2021 年度休眠預金活用事業「社会的困難者を支えるローカルアクション」

2021 年度休眠預金活用事業「社会的困難者を支えるローカルアクション」で採択した 3 団体の伴走支援を実施。なお、3 団体のうち（一社）福野アソシエイツは年度途中の採択であり事業計画、資金計画等の精緻化支援を実施している。

実行団体名	特定非営利活動法人 よってカフェ	助成額/総事業費	19,822,000 円/25,167,400 円
事業名	生きづらさを抱える人も幸せになれる地域の居場所づくり (受け入れあい、刺激しあう！安心して過ごせる第三の居場所)		

中長期 アウトカム	事業終了後5年後に南砺市内において、みんなが安心して寄れる場所「よってカフェ」を常時開設できることにより、生きづらさを抱えている人が安心して社会とつながれる地域や社会になる。行政や関係機関と連携できることにより、生きづらさを抱えている人の情報が共有され、支援が必要な人に、必要な支援を届け、地域で見守ることができる地域や社会になる。	
非資金的 支援	社会課題 解決	・月1回程度の担当 PO 打合せ ・事前評価ヒアリングによって直接受益者の解像度を高める支援
	組織基盤 強化	・会計支援 ・ガバナンスコンプライアンス体制構築支援
	環境整備	・関係者ヒアリング

実行団体名	農事組合法人 大鋸屋営農組合	助成額/総事業費	14,570,400 円/18,213,000 円
事業名	中山間地の地域コミュニティを維持し、誰もが安心して暮らせる地域共生社会を目指す。（集落の環境や農地と生活を守るため、集落営農組織の活性化と共に、次世代を担う後継者人材を育成する）		
中長期 アウトカム	農作業が困難となり後継者のいない高齢者の農地を経営改善した集落営農組織に安心して引き継ぎ、その下で、意欲のある若手の参入者が希望を持って営農や環境保全を行う。また、営農組織は、住民自治組織と一体となり生活を支える活動を行い、幸せに暮らすことの出来る地域共生社会を実現している。		
非資金的 支援	社会課題 解決	・月1回程度の担当 PO 打合せ ・事前評価ヒアリングによって直接受益者の解像度を高める支援	
	組織基盤 強化	・会計支援	
	環境整備	・若手農業者育成塾の開校支援	

○実行団体の決定

2021年度休眠預金活用事業の実行団体の追加公募を2022年10月24日から11月30日まで行い、2団体の応募があった。12月14日に審査会を実施し1団体を選考し、12月21日の理事会にて内定を決定した。採択団体は採択後事業計画、資金計画、評価計画のブラッシュアップを実施した。

- ・審査会 令和4年12月14日（水）13：30～
アスモ2F大会議室
- ・選考委員 山城清二（富山大学附属病院総合診療部名誉教授）*委員長
森山奈美（株式会社御祓川 代表取締役社長）
渡邊美和子（砺波人権擁護委員協議会南砺地区会長）業務執行理事
藤田敬人（(株)富山銀行ソリューション営業部ソーシャル・ソリューション室企画役補佐）理事
亀田秀一（南砺市エコビレッジ推進課課長）業務執行理事

実行団体名	一般社団法人 福野アソシエイツ	助成額/総事業費	13,000,000 円/15,000,000 円
事業名	福野まちなかりノベーション事業（子育て世代が安心して働けるコミュニティ創造）		
中長期 アウトカム	子育て世帯の人たちが互いに支えながら、子育てを行うコミュニティが形成され、その中で育つ子供たちは、生活習慣、健康管理も安定し、自己肯定感をしっかりと持つ子に育つ。それらが、子ども達が学ぶ意欲と将来への希望につながり、格差なく生き活きと過ごせるようになる。ひとり親の世帯の子どももそうでない子供も同じ子育てのコミュニティの中で育つことにより、親も子どもも社会から取り残されることのない		

	地域となる。	
非資金的 支援	社会課題 解決	・ ニーズ把握ヒアリングへの支援 ・ 事業計画のブラッシュアップ支援
	組織基盤 強化	・ 人員配置へのアドバイス
	環境整備	・ 事例紹介

○休眠預金等活用事業の助成には、プログラムオフィサーが伴走支援を行う。当財団のプログラムオフィサーは南真司（2020年度2団体、2021年度1団体）、能登貴史（2020年度2団体）、吉野玄暉（2021年度2団体）が担当し、事業終了まで伴走支援を実施する。

3. 2022年度休眠預金活用事業「社会的困難者が役割と希望を再生するコミュニティ活動」

2020年度と2021年度は（公財）東近江三方よし基金、（公財）うんなんコミュニティ財団と（公財）南砺幸せ未来基金がコンソーシアムを組み、休眠預金活用事業の指定活用団体である（一社）日本民間公益活動連携機構が公募した資金分配団体に採択された。

2022年度は2年間の事業展開で得た知見を北陸の地に展開するため、七尾未来基金設立準備会とコンソーシアムを組み資金分配団体として採択された。実行団体が社会的困難者を発見し手を結び、信頼関係のもと役割を生み出し、地域住民や関係者に繋ぐことで、希望や居場所の再生を図る事業である。七尾市の資金分配団体と共に事業を遂行し北陸から新たな知見を創出する。

- ・ 実行団体公募期間 令和5年2月1日から3月31日まで
- ・ 申請団体数 3団体
- ・ 選考会 令和5年5月8日
- ・ 事業実施予定期間 令和5年7月より令和8年2月まで（2年8カ月）

2 情報発信・普及啓発

財団の設立趣旨や運用目的などを広く啓発を行うことで、市民の理解や参加を促す。

(1) 寄付者への訪問による財団運営の説明

平成31年2月275名の志民からの寄付（359万円）で財団が設立された。その後も個人や団体、企業等からの寄付を頂き財団運営を行っている。寄付者の方々に財団運営の説明とまちづくりのご意見を頂くと共に継続的な協力を依頼している。しかし財団スタッフが手薄なため取組みは不十分であり充実に努める必要がある。

(2) 地域づくり協議会・まちづくり団体への説明

地域づくり協議会の取組発表会や毎月の事務局 ZOOM 会議などで機会を頂き財団の運営や助成事業の説明を行い、第6回頑張る人・地域応援事業への参加に繋がった。南砺市で活動するまちづくり団体に財団の周知は不十分であり、今後効果的な発信と連携が求められる。

(3) 商工会青年部・となみ JC との連携

まちづくりの主体となりうる人材が集う団体であり、連携強化へとなみ青年会議所理事長に財団理事を担ってもらっている。関係者も参加した第3回なんと未来創造塾で財団運営や事業支援の説明を行った。今後具体的な事業や取組を通し連携を深める必要がある。

(4) ホームページや SNS による情報発信

財団の運営や助成事業、各種取り組み等をホームページや各種 SNS（Facebook・Twitter・Instagram）等に適宜アップして公開している。

(5) ニュースレター・アニュアルレポートの発行

会報（ニュースレターvol. 3、vol. 4）を発行し、寄付者や関係者に送付した。財団運営状況等を小冊子にまとめたアニュアルレポートは寄付者や関係者に説明する大切なツールであり、令和5年度作成に努める。

(6) 活動報告会

助成実行団体による活動報告会（5月21日）を井口椿館で開催。第3回頑張る人・地域応援事業を受託された4団体が活動報告を行った。報告会の参加者は34名だった。

(7) 事例等の外部への情報発信

財団の取り組み事例などを市民に知ってもらうことは、財団への理解だけでなくまちづくりへの参加を促すことにもなる。財団は上記の取り組みと共に助成事業や新たな取り組みを積極的に新聞やテレビなどマスコミ各社を通し情報発信を行った。

3 調査・研究

多くの地域や社会課題がある南砺市で、市民が支え合い地域の持続可能性を高める循環共生型の社会づくりには、市民自らが支える仕組みを構築する新たな取り組みの創設が必要である。

(1) 電子地域通貨

電子地域通貨はお金であると共に、メッセージ性を持った地域内志金循環を構築できる手段でもある。住民同士が支え合う小規模多機能自治のツールとして、又地域で食料やエネルギーを循環させる手法としても期待される。令和4年度は、南砺市の地域通貨準備会に参画し市域で活動するコミュニティ財団の目線で意見を述べた。今後は実装に向け南砺市や関係者と共に普及啓発活動に寄与する活動に取組む。

(2) ソーシャルインパクトボンド（SIB）

行政主導の事業が計画段階で補助金を支給し、成果結果（社会的インパクト）を重視しなかった反省から構築された制度である。地域や社会課題に取り組む提案をし、成果結果が得られた場合に行政から補助金が支給される仕組みである。先行して制度を実施している東近江市の事例の情報収集を行った。東近江市では、（公財）三方よし基金が事業提案を審査し成果目標を設定し、必要な資金を多くの住民からの出資（2万円程度）で賄う。事業が結果を出せば行政からの補助金で出資した住民に還元される。この仕組みの良さは、地域課題に取り組む団体を住民が資金的に支援するだけでなく、団体が行う事業を直接的に応援する仕組みである。枠組み作りに工夫は必要だが、令和5年度調査研究し、南砺市での導入に取組む。

(3) 協調融資・投資

地域での支え合いや地域の課題解決に取り組む団体へ、財団は各種助成事業で支援を行っている。今後より大きな事業や多くの団体を支援するため、必要で効果的な融資や投資を金融機関と協調し行うための調査・研究を行う必要がある。支援を行う団体に即した融資・投資のイメージをヒアリングなどを通して描き、金融機関との具体的な協議を行う。本年度は具体的な動きを出すことまでは至らなかったが、今後助成のみで団体を支援することに資金的な困難を抱えることは明白であるため早期の着手をしていかなければならない。

(4) ふるさと納税との連携

ふるさと納税との連携は当財団設立時より一つのテーマとなっているものの未だに具体的な動きを出すまでには至っていない。当年度においても南砺市側との意識共有（ふるさと納税を当財団に流れるようにする）まではされているものの実施に向けて担当課との協議は行っていないの

が現状である。具体化に至るには寄付金の用途を明確かつ魅力的にし、市当局との折衝が必要となってくる。次年度以降はそれらを踏まえ動きを出していく。

4 志金調達

安定した財団運営を行うために運用資金となる寄付金や遺贈金を受けるための新たな仕組みを構築し、周知・啓発を図った。

(1)企業・各種団体への訪問

財団役員や南砺市の企業や団体へ寄付部会のメンバーと訪問し、事業報告の説明と要望などをヒアリングすると共に、財団運営支援へサポーター会員登録を依頼した。財団への理解を深める機会となり、多くの寄付だけでなく法人サポーター会員も増加した。

(2)サポーター会員制度の運用

令和4年度サポーター会員制度（法人・個人）を創設し、直接企業や個人を訪問し説明すると共に多様な機会を捉え情報発信に努めた。その結果、18法人サポーター会員と8名の個人サポーター会員の登録を頂いた。今後も財団の活動を多くの企業や個人に周知する取組を通し、サポーター会員の増加に努める。

(3)ローカルクラウドファンディングの実装

クラウドファンディングはインターネットを通して自分の思いを発信し、その思いに共感した人や支援したい人から資金を募る手段として広く認知されている。財団はよりローカルに焦点を当て、南砺市の地域資源を使って稼ぐ力を高め、稼いだお金が地域の中を循環し、地域にある課題を継続して解決していく仕組み作りを目指している。

(4)遺贈の相談窓口の設置

令和3年度全国レガシーギフト協会に正会員として入会し、財団ホームページに遺贈寄付の窓口を整備した。令和4年4月18日アスモ2階会議室で北陸銀行と遺贈に関する協定締結式を行った。その後もレガシーギフト協会と連携し、12月21日遺贈寄付ライブを、令和5年1月20日に遺贈寄付連絡会をZOOMで行った。令和5年2月4日にはレガシーギフト協会から講師を招き、アスモ2階会議室で寄贈寄付セミナーを開催した。まだ財団として遺贈寄付の実績はないが、多くの機会に周知に努め遺贈を通し社会貢献したいとの思いを受け止める体制の整備に努める。

5 組織基盤強化

多くの課題を有する南砺市において循環共生型社会の構築には、これまで記載した重点事項の取組みと共に財団の組織基盤の強化が必要と考え取組んだ。

(1)組織経営・財務運用

財団組織に関し執行理事会や部会を見直し、組織体制を評議委員会、理事会と運営委員会・コンプライアンス委員会・ファンドレイジング委員会及び事務局とした。財務運用に関して、休眠預金活用事業管理費や各種寄付及び行政からの委託事業等で賄っているが、志金調達や協調融資・投資なども含め財務基盤の強化に取組む必要がある。

(2)プログラムオフィサーの育成・雇用

循環共生型社会づくりを担う団体の支援には、人材育成やネットワーク作り及び組織基盤の強化な

ど非資金的支援が重要であり、休眠預金等活用事業で活動するプログラムオフィサーの確保と育成が重要である。休眠預金活用事業の実践や研修プログラムの受講、「東近江・雲南・南砺ローカルコミュニティファンド連合」における採択実行団体への視察等の学び合いを通して、知見を共有しプログラムオフィサーとしての育成につなげている。令和4年度、1名のプログラムオフィサーを採用し育成中である。

(3)資金管理、支援事業、組織体制の確実な運用

財団事務局の事務事業を細分化し業務分担すると共に、毎週の事務局会議で情報共有と的確な財団運営につなげている。今年度、コンプライアンス委員会で財団のガバナンス・コンプライアンスをチェックし、定期的な研修で透明性の高い組織運営に努めている。昨年度に引き続き、一般社団法人全国コミュニティ財団協会との交流および研修会に参加し、コミュニティ財団として知識や他団体とのつながりの構築に努めている。また、管理体制強化のために、クラウドシステム「セールスフォース」を導入し、ステークホルダー・助成事業・寄付・相談記録等のデータの一元化を行った。

(4)なんと未来支援センターとの連携

今年度財団は南砺市から中間支援組織と認定され、令和2年度認定のなんと未来支援センターと共に、アスモ2階の南砺市協働のまちづくり支援センターで事務所を共用し、連携してまちづくりを支援する体制が整った。南砺市の未来を創造する人材、地域や社会課題を解決する個人や団体及び小規模多機能自治活動などをワンストップで支援する。今後なんと未来支援センターが非資金的支援を、財団が資金的支援を中心に協力し行い、より効果的な支援や連携のあり方を模索する。

II 運営に関する実績

1. 寄付金の状況

一般寄付	18件	17,307,610円
サポーター会員個人年会費	6件	35,000円
サポーター会員法人年会費	15件	680,000円
冠基金「第一交易株式会社西能スポーツ賞」	1件	5,000,000円
総額		23,022,610円

2. 会議状況

(1) 業務執行理事会

会議名	日時	内容
第1回業務執行理事会	4月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会、評議員会の開催について ・令和4年度事業計画（案）及び決算について ・新役員選出について ・頑張る人・地域応援事業について
第2回業務執行理事会	7月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・各部会からの報告（寄付部会、コンプライアンス部会、中長期ビジョン策定部会） ・2022年度休眠預金事業について

第3回業務執行理事会	8月31日	<ul style="list-style-type: none"> 各部会からの報告（寄付部会、コンプライアンス部会、中長期ビジョン策定部会） 第6回頑張る人・地域応援事業について 休眠2021年度採択実行団体についての情報共有 業務管理システム導入について 顧問弁護士について
臨時業務執行理事会	9月8日	<ul style="list-style-type: none"> 休眠2021年度採択実行団体ヒアリングの結果の報告と協議
第4回業務執行理事会	11月2日	<ul style="list-style-type: none"> 各部会からの報告（寄付部会、コンプライアンス部会、中長期ビジョン策定部会） サポーター会員規約の変更 相談窓口の設置 休眠2021年度採択実行団体ヒアリングの結果 第一交易様冠基金の創設について 第6回頑張る人・地域応援事業について 後援制度について
第5回業務執行理事会	2月17日	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度年度年間計画案について 令和5年度予算案について 第2期5ヵ年ロードマップについて 休眠預金活用事業における利益相反事案の事例共有 役員変更（退任）についての報告

(2) 理事会

会議名	日時	内容
第1回理事会	5月20日	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度事業報告について 令和3年度計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について 役員改正について 評議員会の開催及び目的事項の決定について
第2回理事会	6月30日	<ul style="list-style-type: none"> 代表理事の選定について 業務執行理事の選定について 第5回頑張る人・地域応援事業の結果について 広告HPアドレス変更について
第3回理事会	9月28日	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度休眠預金事業の結果について 2021年度休眠預金事業再募集について 顧問弁護士について 助成財団システム導入について コンプライアンス委員会報告 中長期ビジョン策定部会報告 第6回頑張る人・地域応援事業公募について

		・2021年度休眠預金事業採択実行団体について
第4回理事会	12月21日	・サポーター会員規約の変更について ・第6回頑張る人・地域応援事業の採択結果について ・第一交易様冠基金の創設について ・後援制度について
第5回理事会	3月21日	・休眠預金等活用助成事業の実行団体採択の承認について ・令和5年度事業計画（案）の承認について ・令和5年度収支予算（案）の承認について ・財団運営体制の変更についての協議

(3) 評議員会

会議名	日時	内容
定時評議員会	6月23日	・令和3年度事業報告について ・令和3年度計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について ・役員改正について ・令和4年度事業計画の報告 ・令和4年度予算書の報告

(4) 監査の実施

令和4年5月19日、監事（2名）が令和3年度の監査を実施し監査報告書を作成した。

3. 寄付者名簿作成

令和3年度に引き続き、令和4年度の寄付者の名簿を整備した。

4. 受託事業

南砺市より以下の事業目的の業務委託を受託している。

(1)地域伴走支援体制強化事業

契約額 4,620,000円

期間 令和4年4月1日から令和5年3月31日

内容：多様化し複雑化している社会課題解決への取組みを実施することを目的に受託。具体的には、財団が課題解決能力を高めるために人材育成を実施し、地域内の活動の伴走支援を行えるよう体制構築を進めた。課題の収集整理、分析を行う中で打ち手となる助成プログラムの検討や助成した団体または相談案件について伴走支援を実施している。

(2)まちかどトーク（外国人）運營業務委託事業

契約額 99,000円

期間 令和4年12月1日から令和5年2月28日

内容：対話による協働のまちづくりを進めるためになんと未来ミーティング（外国人コース）開催の運営支援業務委託を行うもの。なお運営にあたっては、南砺市友好交流協会等外国人支援を実施している諸団体と連携し業務を実施し、現状の仕事や生活に関する困り

事や悩みなど、現状（課題やニーズ）の把握が、本事業における大きな目的である。今回は「防災」にテーマを絞り、南砺市内在住外国人支援へ市の施策へ活かす。

5. 他機関等の連携

特に、以下の団体と連携し事業を実施した。

- ・南砺市
事業の受託、事務局業務
- ・（一社）なんと未来支援センター
地域課題解決に向けた情報共有と連携、相互の会議への出席
- ・公益財団法人東近江三方よし基金、公益財団法人うんなんコミュニティ財団
休眠預金事業の資金分配団体としてコンソーシアムを構成、各種知見の共有を図る
- ・七尾未来基金設立準備会
休眠預金事業（2022年度枠）の資金分配団体としてコンソーシアムを構成
- ・一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）
休眠預金事業の指定活用団体、各種研修会なども実施
- ・（一社）全国コミュニティ財団協会
コミュニティ財団（地域に根差した団体）の全国組織。各種研修の開催や情報提供
- ・（一社）全国レガシーギフト協会
遺贈に関する連携